

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173600261		
法人名	有限会社フクシ		
事業所名	グループホーム藤の里		
所在地	埼玉県加須市鴻基2168-2		
自己評価作成日	令和8年3月26日	評価結果市町村受理日	令和8年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2		
訪問調査日	令和8年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の個々の尊厳を重視し、その方らしく生活が自然に生き生きと笑顔で過ごせるように環境の整備を重視しています。コロナ禍が明け、外部との接触が徐々に開放されつつも、体調面で未だ不安が残っている状況ですので職員全員で体調管理にも重視し、協力医療機関と連携を図りながら入居者様様の安全な生活をご支援できるように日々努力をさせて頂いております。レクリエーションにおいても、地域のボランティア様が訪問してくださり笑顔で過ごせる時間を増やす事が出来るようになりました。職員も、一様に皆明るく笑顔で入居者様・ご家族に接しており、信頼関係も構築され、とても良い関係が保たれています。職員全員が体調管理に留意し、笑顔を絶やさない職場づくり、入居者が安心して過ごせる環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●複数個所との訪問診療契約により利用者の安心・家族の負担のバランスを考慮した受診体制を構築しています。状況や意向に合わせた選定を可能とし、医療と福祉の連携を実現しています。 ●運営推進会議では、活動報告のほか、身体拘束廃止委員会の開催がなされ、また、認知症への理解を深めるための講義など工夫した実施がなされています。多様なメンバー構成から地域交流への姿勢やこれまでの貢献の深さを理解することができます。 ●年度に6回の避難・防災訓練のほか各種想定のもとリスクへの確認がなされています。各種マニュアルの設定、研修の実施などを通して職員の習得と浸透にも注力がなされています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域自治会に加入参加し、住み慣れた地域のイベント等住民との交流を大切に、その人らしい生活が自然に送れるように支援することを理念に掲げている。朝の申し送り時に読み上げ日々共有を行い実践につなげている。	家庭的なぬくもりの中で、プライバシーを尊重した支援に努めている。医療との連携や適切な環境形成など新たなチャレンジをもって運営を進めている。	支援技術・業務遂行・記録など職員の育成を課題として捉えている。外国籍の職員も含め、利用者の安心に寄与する環境形成を目指している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過があげ、運営推進会議を実施出来るようになりました。推進会議を通じて地域の方との交流やイベントへ参加協力を継続して行い地域に密着した施設として地域に貢献出来る様に努めている。	演奏ボランティアの来訪など地域との交流が図られている。多彩な運営推進会議参加メンバーにホームの地域貢献・浸透度を理解することができる。	救命講習への地域の方々の参加、中学校の職業体験の受け入れなど地域貢献を進めていく意向をもっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受入れを積極的に行って居る。認知症についての理解を深めて頂き支援方法を学び活用できるように地域の方々にもお仕事のお手伝いが頂けるように地域民生委員様を通じお声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平日の会議である為、ご家族の参加は少ないが地域の区長・民生委員・高齢者相談センター・薬局等多職種の方々より質問・意見・要望等を受け検討事項も合わせながら内容の充実を図りサービス向上に活かしている。	運営や活動の報告のほか、身体拘束廃止委員会の開催がなされている。また、認知症への理解を深めるための講義など工夫した実施がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援センター・市町村各担当者と日常的にケアサービスの取り組み等、現状報告・相談等情報共有を密に行い協力体制や関係性を構築して連携を図り取り組んでいる。	運営推進会議への招待を通して関係構築に努めている。協調・連携により、利用者の安心した生活につなげるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表から定期的に伝達と解説を通し拘束等の禁止対象行為を具体的に理解取り組みが出来る様、意識を教示し職員も徹底した実践に取り組んでいる。	高齢者虐待の防止等各種事業所内研修が年度で計画され、実施されている。法定事項のほか職員の資質向上に対してテーマを選び、研鑽を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を基本とし、不適切ケアについても更なるテーマをあげ実践を行っている。不適切ケアを職員全員が、認識・意識を深く持ち、理解・行動出来る様に定期的に虐待に繋がる要因について話し合い、周知徹底のもと防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や高齢者相談センターでの講習会等に参加し、家族会等を通じて個々の必要性を話し合いながら活用支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用料の説明・医療連携体制加算や医療・個人負担の内容・重度化対応等・家族が十分に理解・納得出来るように図り、ご質問をお受けしながら詳しく説明対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常的な会話からの訴え等を反映し、ご家族様等には苦情箱の利用や対応窓口の設置を行いその都度話し合い、意見等を反映しながら運営を行っている。	毎月、家族へのコメントを添えた便りを送付し、近況や健康状態を伝えている。家族との外出や面会を通じて関係継続を支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや研修会などの中で、個々の意見や提案を伝えやすい環境を整えながら、職員間の連携を保ち、働きやすい職場環境作りに取り組み反映させている。	職員ミーティングでは利用者のケースカンファレンスなど支援方法の共有に努めている。また、職員からの相談に応じるなど働きやすい職場となるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員と面接・面談を実施し、面接の場に於いて個々の労働状況を把握しながら評価を行っている。各自が、やりがいを感じ向上心を持って働ける職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に合ったレベル向上を図るため個々に合った研修内容や施設内研修を行いケア向上の為にトレーニングを実施し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協議会に加盟し、勉強会・情報交換・実習生の受け入れ等サービスの質・職員の質の向上に取組み、市内の他事業所と地域密着会議を定期的に開催しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の生活歴・背景の把握が出来るように努めると共に、サービスの利用について本人・家族の不安や悩み・希望等の思いを面接時に拝聴し向き合いながら、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況や家庭環境を把握し、家族の求めることに耳を傾け理解を深め、サービス導入前に不安等の軽減を図りながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人の身体状態からの要望や家族の思いなどを踏まえた必要としている支援を見極め他のサービスを取り入れながら対応提案をおこなえるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に寄り添うケアを目指し、気軽に声かけの出来る関係性や家族的な信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いや心配事を共有し、日常の様子等詳細に伝える事により、相互の協力体制が確立され気付きや情報共有に繋がる為、共に本人を支える関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人様が、気軽に面会でき、関係性が途切れないよう支援に努めている。コロナで一時面会が困難だったが、現状は家族やご友人との外出や外食を楽しみながら過ぎて頂けるようになって来ている。皆様からのご連絡の際には、ご支援ご協力を賜われるように努めている。	編み物や絵画など利用者の趣味が継続できるよう支援に取り組んでいる。また、家族への要望聴取を通じて、協働した支援となるよう報告・連絡に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者が好きな物・趣味など職員が情報を共有し、気の合う利用者同士で楽しみながら穏やかに過ごせる時間や他の利用者ともコミュニケーションが取りやすいように職員が調整役となり支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動(契約終了)された方も、面会を行なったり、家族との交流や行事参加のお誘いのお声がけを行う等、関係性を大切にしながら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の話しを傾聴し、思いや希望などを職員が把握出来るように努めている。主訴が理解困難な場合は、日常の様子や表情、身体状況などを観察しそれを踏まえて検討している。	アセスメントシートの設定・個別ファイルへの整理により、職員が利用者の状況をいつでも確認できる環境となっている。日々一緒に生活することで利用者を理解し、意向を推察しながら支援を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者等から聞き取りをおこない、その人の背景を把握することにより、サービスのより良い検討と提供が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の時間プライバシーを大切に、心理的側面に着目し、その人らしく生活が過ごせるように全体的現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的関わりの中で、思いや意見を伺い反映出来る様に努めている。カンファレンスを開催して職員・ケアマネ・家族等の思いも反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。	医療機関・家族等からの意見聴取、職員からの状況報告を通じてケアプランの策定にあたっている。作成・更新されたプランはいつでも確認できるよう設置されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを利用し、食事・水分摂取量、排泄等身体状況や服薬の確認、本人からの訴えや会話・表情等をケア記録へ記入し、職員間で情報共有の周知徹底をおこなっている。介護計画は、ケア記録や情報共有・実践を踏まえて介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療連携体制の充実に伴い、利用者・ご家族様にとって医療面においても個々に安心感が高まるように柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自主防災組織に加入し、利用者が安心して地域で暮らし続けられ、地域の方々との協力体制の中で、民生委員・ボランティア・消防などと常に連携を保ち、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の連携体制が整い医療面で充実した支援をおこなっているが、Drの判断やご家族様の希望により外部への通院や受診の際には本人・家族希望を伺い状況に合わせ適切な医療を受けられるように支援している。	複数個所との訪問診療契約により「利用者の安心」と「家族の負担」のバランスを考慮した受診体制を構築している。状況や意向に合わせた選定を可能とし、医療と福祉の連携を実現している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の契約に基づき日常生活における健康管理や医療面での相談や助言等、適切な受診や看護対応を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療ソーシャルワーカーや家族との情報共有を密に保ち、状況の把握に努め入院中の様子や退院時、退院後の計画等、具体的に三者一体として相談対応できる関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方に伴う不安に対し、グループホームとして対応し得る最大限のケアについての詳細な説明を行っている。方針等の共有をおこない関係者等と共にチーム支援に取り組んでいる。	指針の作成と説明・搬送時の情報提供準備など終末期および重度化へのケアに取り組んでいる。医療機関・家族との協調・連携を図り、利用者にとって最善の選択となるよう提案・支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を受講したり、AED使用の勉強会に参加し、緊急時対応訓練を行っている。日中帯・夜間帯対応のマニュアルを作り、職員全体で徹底的に周知をし、緊急時には対応出来るような取組みを身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し定期的に防災訓練を実施。災害対策の準備を行っています。併せて水害を想定した訓練も取り入れ避難を地域で協力出来る体制を築いている。	消防訓練を施設内で年6回、消防署同席の訓練2回、座学研修実施等がなされている。リスクへの備えに被災時事業継続への意識と利用者への配慮があらわれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう常に言葉遣いや支援方法にも配慮をおこなっている。個別記録等にも守秘義務を励行している。個人管理についても留意を行い一人一人の尊厳を重視し、プライバシーの確保に努め対応している。	利用者それぞれの認知症状の違いを理解したケアが心掛けられている。職員会議では、対応方法の検討・接し方の相違等について情報共有をし、ユマニチュードを意識した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の意思で自己決定や思い、希望を表現出来るように環境の整備を行い働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人らしい生活が過ごせるように、個々の思いや体調への配慮等を重視し、本人のペースを大切にしながら、希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつまでも自分らしい身だしなみやお洒落が楽しめる様に本人に衣類等の、自己決定の促しを行っている。支援が必要な人は思いを聞き入れ職員と一緒に考えながら決定、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	藤の里グループ全体で月に一度、各事業所より利用者からのリクエストメニューで、食事提供を行っている。グループイベントでは、芋煮会等を開催し楽しみを持てるように工夫しながら支援を行い一緒に準備や片付けをしている。	食事提供方法の研修を実施するなど安全と利用者満足の向上に取り組んでいる。家事参加・衛生などさらなる促進についても課題と検討事項を抽出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量など確認しながら記録し職員が個々の情報を共有し内容に応じた対応を行っている。給食委員会を月1回設け、栄養バランスやメニューなどの話し合いも行い個々の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持のため、毎食後、職員の声かけ介助により本人の力に応じた口腔ケアをしている。夕食後は、義歯など洗浄剤を利用して入れ歯の洗浄も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い、排泄リズムや時間を把握し一人ひとりのパターンや習慣性を踏まえたトイレ誘導の声掛けをおこなっている。トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の記録を通して排せつ・健康状態・食事等利用者の全体を考慮した支援に取り組んでいる。装具の選定、ポータブルトイレの使用など利用者の能力を活かした生活となるよう支援方法の検討に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・排便の確認の他、散歩や体操など身体を動かすことにより自然排便を促す心掛け対応、工夫を行っている。便秘時は、水分を多めに摂取・本人に合った処方薬の下剤等で排便の促しを行うよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみになるように、時節にあった季節感や香りで、リラックス・気分転換が図れるように創意工夫をおこなっている。体調を確認しながら個々にそった支援をしている。	利用者の状況にあわせたケア・グループホームらしい満足感を意識した入浴支援に努めている。こまめな清掃と整備により浴室の清潔と安全の保持がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やレクリエーション等、個々に合わせた活動で身体を動かし、安心して眠れるように促しを行っている。不眠の利用者は、日々の様子を観察し原因を把握し良眠に繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情(コピー)をファイル化、全職員が内容の理解が出来る様に工夫を行っている。誤薬等の事故がないように手渡し・飲込み動作確認・服薬のWチェックなど工夫した管理を行い、症状の変化なども記録し対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族から生活歴・趣味・やりたい事等、聞き取りを行い、個々の持つ力を活かした役割のある生活を、張り合いを持ち楽しみのある日々と現状を保持しながら過ごせるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調や天候を確認しながら、戸外に出かけられるような支援に努めている。季節の花見や家庭菜園の野菜収穫、お散歩等を楽しみ気分転換が図れるように地域の方々と協力をしながら計画・実行をおこない支援している。コロナ過もあけ今後は、状況に応じた様々な行事を企画提案し継続支援を行う。	家族との協調のもと外出・外食などがなされている。全利用者同時による外出が困難なため、花見などの行事については、実施方法の検討にあたっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる場合は、家族の協力のもと金銭の所持の支援をおこなっている。できない方に関しては家族に依頼し不所持対応を促す支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に家族・友人等の電話や手紙のやり取りは楽しまれている。電話も希望があれば随時かけられる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が、利用者の不快や混乱の原因となる刺激的要因がないよう、時間帯・空調管理・清掃などの配慮を行い生活感・季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	壁面の飾り物を整頓するなど利用者の居心地・落ち着きを意識した装丁に改善を図っている。リビングで過ごす時間が長いことから利用者同士の関係維持にも配慮に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関など、共有スペースにソファを置き一人でも寛げる空間を用意し、また気の合う仲間と一緒にテレビや雑誌が楽しめ、居室以外の場所でも、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で本人が愛用していた馴染みの愛着のある品物をご本人・ご家族と相談しながらご持参頂き、居心地のよい居住空間の利用提供がおこなえるような工夫をしている。	横になる・テレビを鑑賞するなど思い思いに過ごすことができる居室が提供されている。居室担当職員を中心に使い慣れた家具等の配置、清掃・整理をし、落ち着ける環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に出来る事・出来ない事・要介助度合い等、職員・担当者等で話し合い、自立した生活の継続が送れるように残存機能を最大限活用した支援の工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホーム藤の里

目標達成計画

作成日：令和8年4月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	1	地域住民との交流を大切に住み慣れた地域で、その方らしい生活が自然に送れるように支援する事を理念に掲げている。家庭的なぬくもりの中でプライバシー保護を尊重した支援に努めている。外国籍労働者雇用の促進を図るため、支援技術・コミュニケーション能力等、今後大きな育成課題となる。	外国籍職員のみではなく、職員全てが理念に基づいた支援に取り組めるような環境形成を整えていく。特に外国籍職員が利用者様へ不安を与えず、自身が生き活きと仕事ができるような育成に努める。	職員全員が、理念に基づいた支援方法(技術・記録・コミュニケーション能力等)を日々向上していく努力が出来る様な、研修や実習をおこなう機会を設ける。外国籍職員に対して、介護技術支援方法のみならず、語学力等学べる機会の提供を図る。	9 ヶ月
2	2	コロナ過があげ、徐々に事業所と地域との繋がりが戻りつつある。運営推進会議も再開出来るようになり地域の情報等が少しずつで共有出来る環境となってきた。しかし事業所自体が地域の一員として日常的に交流しているとはまだまだ言えない状態であり地域密着型の施設として今後どのような対応をおこなうかが課題となる。	地域施設として地域住民の方やボランティア様等のご協力を賜わり、入居者様が共生出来る環境の整備を徐々に整えていく。常時より災害対策に備え、近隣住民等に施設の要援助の理解を深めて頂く機会を設け、実際の災害時に協力し合える相互作用・関係を構築していく。	救命救急や認知症の研修など地域の方々の参加を募り、交流の場を確保する。講習や研修を通じて地域の方々との連携を図り情報共有出来る様な連携体制を高めていく。地域の中学校等に認知症への理解を深めて頂ける場所として、職業体験事業の一環として参加頂けるように促していく。	12 ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。